

# 万葉図書・情報室だより61号

## 万葉衣裳について

先日行われた「にぎわいフェスタ万葉 春」では万葉衣裳体験もあり、万葉図書・情報室に飛鳥・奈良時代の衣裳について、多くの問い合わせがありました。

Q:どのような衣裳を着ていたの？

A:画像や図を見るとイメージがわかりますね。上衣は「衣(きぬ)」、スカート状の「裳(も)」、ストールのような「領巾(ひれ)」など、それぞれに名前がついています。



〈参考文献〉

『日本服飾史 女性編』

(井筒雅風/光村推古書院)

『図解日本の装束』

(池上良太/明昌堂)

Q:高松塚古墳の壁画の女官と奈良時代の女官の着物のあわせ方が逆になっているのはなぜですか？

A:飛鳥時代の着方は左の襟に右の襟を重ねる左前でした。

ただこの時代の日本は中国に倣うことが多く、中国では左前は蛮人の風俗として軽蔑されていたため、日本でも中国に倣って、奈良時代には現代の着物と同じように右襟に左襟を重ねる右前になりました。

これは養老律令(718年)の衣服令にも制定されています。ただし、令が出されたからすぐにすべての人が右前になったわけではなく、襟のあわせ方がみな右前になるまで、相当の年月がかかったようです。

Q:万葉時代の衣裳から平安時代の十二単までの変遷を知りたい。

A:平安時代の894年に遣唐使が廃止され、唐との関係が薄れていきます。唐風の衣服から、日本の気候・風土にあった衣服へと変わっていききました。女房装束の重ね着はもともと板の間

でじっとしていることの多い女性の体を冷やさないうえに、後に豊かさの象徴になりました。配色が例えば表が紅梅または蘇芳(すおう)、裏が青の重ねの色目は「つつじ」、5・6月は「撫子(なでしこ)」というように、色の重ね方に四季折々の植物名前をつけ、配色によって季節感を盛り込みました。国風化された優美で華麗な装束でした。

〈参考文献〉

『概説 日本服飾史』

(小池三枝他/光生館)

『日本衣服史』

(増田美子/吉川弘文館)

『図説 日本服飾史事典』

(増田美子/東京堂出版)

『王朝貴族の暮らしと国風文化』

(西ヶ谷恭弘/あすなろ書房)

## 「万葉百科」を

### インターネットで公開



さまざまな角度から検索でき、『万葉集』に関する情報が広く得られる「万葉百科システム」。平成13年の開

館当初から万葉図書・情報室で運用していましたが、今年の3月から「万葉百科」として、インターネットでの公開が始まりました。『万葉集』全20巻のテキストデータをはじめ、人物名や詠まれた動植物、地名など、万葉の時代に関する情報をデータベース化しています。また、万葉文化館の美術品・古典籍・図書の所蔵情報や全国の歌碑情報なども収録しています。万葉文化館のホームページから入ることができます。ぜひご利用ください。

## 剝 開 窓 肉

図書室のご利用は無料です。閲覧のご利用になります。

開館時間:午前10時~午後5時半

休館日:月曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始・展示替日

日・年末年始・展示替日

コピーサービス:白黒 1枚10円

カラー1枚50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室

奈良県高市郡明日香村飛鳥10

0744-54-1850(代)

